

市町村名		宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	阪神タイガース春季キャンプ受入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第4章-Ⅲ-(2)-ウ					
担当部署名	観光商工課	事業実施(予定)年度 平成24年度～令和13年度	多彩かつ質の高い観光の推進 Ⅲ-1-(1)					
事業内容	阪神タイガース春季キャンプは多くの観光客が本村を訪れる重要な観光資源となっているため、常設防球ネットの改修や仮設の防球ネット及びテントの設置、野球場とサブグラウンドの黒土の搬入を行うなどプロ野球キャンプの受入体制を強化することで、さらなる観光誘客を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	(a) 当初予算額	9,588	9,588	51,370	50,525	12,991		
	(b) 予算現額	9,588	9,588	51,370	50,525	13,948		
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	957		
	(d) 繰越額							
	A. 計(b+d)	9,588	9,588	51,370	50,525	13,948		
	B. 執行済額	9,410	9,410	50,297	44,457	13,948		
	うち交付金充当額	7,527	7,527	40,237	35,565	11,158		
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)	98.1%	98.1%	97.9%	88.0%	100.0%		
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については委託費や備品購入費の入札残や人件費の残などによるものである。							
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	阪神春季キャンプの受入体制の構築 ・野球場防球ネット、エアアーチ、テント等設置	目標	防球ネット(エアアーチ、テント等設置)	防球ネット(エアアーチ、テント等設置)	防球ネット(エアアーチ、テント等設置)	防球ネット(エアアーチ、テント等設置)		
		実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了		
	・野球場、総合グラウンド黒土搬入	目標	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入	野球場、総合グラウンド黒土搬入		
		実績	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了	野球場、総合グラウンド黒土搬入完了		
	・キャンプ会場の衛生管理	目標	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )		
		実績	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施		
	・阪神タイガース春季キャンプ会場改善工事	目標	( )	野球場フェンス(野球場トイレ改善工事)	野球場防球ネット改善工事	( )		
		実績		改善完了	改善完了			
・阪神タイガース春季キャンプ会備品購入	目標	( )	( )	( 機械購入 )	( )			
	実績			購入完了				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手及び見学者が安全・快適に練習・見学ができるよう、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、テント等を設置したほか、清掃員や警備スタッフ等を配置し、球場内外の整備を行った。</li> <li>阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入替を実施した。</li> <li>選手が安心してキャンプに取り組めるよう、衛生品準備やインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策も実施したほか、キャンプ期間中だけでなく、年間を通し調整を行い、球団との関係を築いた。</li> <li>新型コロナウイルス明け及び昨シーズンの阪神タイガース日本一の影響による来場者数の増加を見込んで、安全対策として外野スタンドの防球ネットの設置を行った。</li> </ul>							
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
			目標	( )	( 43,000人 )	( 43,000人 )	( 43,000人 )	( )
	阪神春季キャンプ見学者数(人)		実績		8,900人	59,800人	101,800人	
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症が感染法上「5類」に移行後、初めての春季キャンプであり、尚且つ、阪神タイガースが38年振りの日本一となったこともあり、来場者数の増加が見込まれたため、ライト側外野スタンドへ防球ネットを追加設置した。また、選手及び来場者が安心・安全に練習・見学が行えるようコロナ禍以前より行っていた、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、パワーテント等を設置したほか、清掃員やイベントスタッフを配置し、野球場周辺の環境整備を行った。来場者数は目標を大きく上回り、コロナ禍以前の水準に回復することができた。							



市町村名	宜野座村
------	------

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ 文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				Ⅲ-3-(3)

事業内容	村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保及び、村外からの誘客を図るため、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に芸能文化・伝統芸能公演等を実施する。
------	---

効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)
--------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )
------	--

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	30,000	29,988	29,988	24,970	19,994
	(b) 予算現額	29,934	25,188	29,988	24,970	19,994
	(c) 増減額(b-a)	▲ 66	▲ 4,800	0	0	0
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	29,934	25,188	29,988	24,970	19,994
	B. 執行済額	29,934	25,173	29,978	24,970	19,993
	うち交付金充当額	23,947	20,138	23,982	19,976	15,994
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	計画していた事業内容はほとんど実施できたため適正であったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	(がらまんホール公演) 「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」 「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催する。(10回以上)	目標 ( 7回 )	( 14回 )	( 11回 )	( 10回 )
	実績	7回	14回	13回	11回
	(お出かけ公演) 教育施設、福祉施設、観光施設等で文化事業を行い、文化芸術を通して交流できる芸術普及及び活動を行う。(4回以上)	目標 ( 6回 )	( 4回 )	( 3回 )	( 4回 )
	実績	3回	4回	7回	5回
	(事業アーカイブ及び映像制作配信) 過去に開催した事業の写真や映像等の動画配信を行う(3項目)	目標 ( - )	( 4項目 )	( 3項目 )	( 3項目 )
	実績	-	4項目	5項目	6項目
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>がらまんホール公演については、がらまん音楽コンサート、伝統芸能公演、先進的文化芸術創造事業など、計11回の公演を施した。</li> <li>お出かけ公演については、村内福祉施設民謡コンサート、幼稚園、劇場へのインリーチコンサート、村まつりなど、計5回の活動を実施した。</li> <li>事業アーカイブ及び映像制作配信については、文化講座(2)、映像作配信事業(3)、ホームページ維持管理(1)の計6項目を実施した。</li> <li>全ての活動目標(指標)を達成することができた。</li> </ul>				

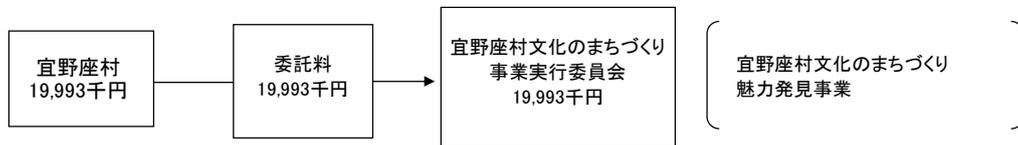
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
			①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	目標 ( )	( 2,646人 )	( 2,778人 )
	実績		925人	3,738人	2,849人	
	②お出かけ公演対象者数	目標 ( )	( 2,756人 )	( 2,893人 )	( 3,037 )	( )
	実績		329人	6,575人	6,232人	

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>①芸術文化・伝統芸能公演については、目標数値を多少下回ったが内容は充実したものを実施できた。</li> <li>②お出かけ公演については、宜野座村まつりに想定よりも多くの来場者が訪れたことにより、目標数値を大幅に上回る結果となった。</li> </ul>
--------	--

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①昨年度は美術展を長期間開催し集客数が伸びたことと、昨年度に比べ今年度は公演回数が少なかったことで目標数値を下回る結果となった。</p> <p>②お出かけ公演は、訪問先、日時、ジャンルによって事業効果や対象者数が大きく変化する。</p>	<p>①対象者、入場者数も重要であるが、偏りのない多様な芸術・伝統芸能公演を実施するためにも、成果目標は、毎年上昇させていくのではなく、年度ごとに異なる規模やジャンルに合わせて設定する必要がある。</p> <p>②お出かけ公演の対象や場所、ジャンルを年度毎に変えていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①年度毎に規模や回数は異なるが、多様な芸術文化に触れる機会を創出し、様々な演目や舞台をその継続性と新規性のバランスを考慮し、内容を充実させた企画を行う。</p> <p>②お出かけ公演とともに、制作した事業アーカイブ及び映像制作配信事業を活用し、村内外多くの人に文化芸術を届け、宜野座村の魅力や文化振興、誘客等に寄与する。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
19,993	19,993	15,994	3,999	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○多種多様な事業を円滑に進める為に、村内各種委員で構成する委員会と随意契約しており、選定は妥当であったと考えている。</p> <p>○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。</p> <p>○使途について額の確定時(完了検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
<b>令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-③	宜野座村着地型観光誘客推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客受入体制の整備		
事業内容	宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通したイベントの開催、観光関連人材の育成等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	49,650	73,372	66,285	66,867	54,233
		(b) 予算現額	47,834	71,736	65,328	65,420	52,551
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,816	▲ 1,636	▲ 957	▲ 1,447	▲ 1,682
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	47,834	71,736	65,328	65,420	52,551	
	B. 執行済額	47,834	71,736	56,924	65,417	52,550	
	うち交付金充当額	38,267	57,388	45,538	52,334	42,040	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	87.1%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	全体的に滞りなく予算執行が出来た。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	観光誘客プロモーション活動の実施(関西地域、関東地域、沖縄県内、団体誘致等)	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施なし	実施	実施	
	・観光プログラムの開発事業の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	・観光人材育成事業の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施なし	実施	実施	実施なし	
	年間を通したイベントの開催(3回)(村内)	目標	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	
		実績	3回	3回	3回	4回	
外部専門家(アドバイザー)招聘によるSNSなどの活用による情報発信の検証と発信技術の向上を図る。	目標	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )		
	実績	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化及び商品造成に向けた取り組みを実施		
達成状況説明	宜野座の魅力を最大限に活かせるツーリズムの一つとして、ウェルネスツーリズムがある。今年は、ウェルネスツーリズムに特化したパンフレットの作成やウェルネスツーリズムEXPOへの出席を通して、村内事業所と連携したプログラム(健康、ワーケーション)や発信が出来た。その他プロモーションも有効的に実施出来た。 イベントについては、道の駅「ぎのぞ」魅力創出projectとして、来て頂いたお客さんへプラスαの喜びを創出する目的で実施し、来場者を楽しませる事に成功。 発信と同時に観光プログラム造成にも取り組み、地域観光従事者の皆さんからヒアリングを行い、事業所参加型の観光プログラム造成に向けた準備を整えた						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	宜野座村の観光入客数(20万人)	目標	(      )	( 12万人 )	( 12.1万人 )	( 20万人 )	(      )
		実績		13.7万人	20万人	23.3万人	
	【参考指標】	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績					
進捗状況説明	今年度は、ほぼ計画通りに事業を行うことができた。今年は、周遊させる事を意識した事業に取り組みを実施した事で、広告での幅広い発信やプロモーションの展開など、周遊イベントでの活用を実施。 観光入客数に関しては、23.3万人と目標を達成することができ、コロナ禍以前の水準に戻りつつある。						

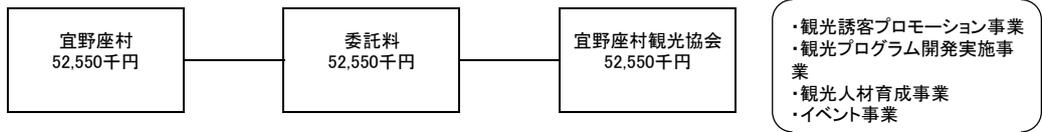
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>今年度は全ての事業を実施することができ、プロモーション活動では新たな取り組みであるウェルネスツーリズムEXPOでのPRができた。</p> <p>周遊や滞在を促すようなツーリズムにも着手し、次年度は、滞在時間を伸ばし周遊出来るイベントを企画実施を目指す。</p> <p>観光プログラム造成にも取り組み、宜野座ならではの「人に出会える旅」をコンセプトにプログラム造成に取り組んだ。</p>	<p>プロモーションについては、これまで取り組んで来た事を継続しつつ、新たな手法での誘客も目指し、テーマ毎のプロモーションイベントに参加し、地域の強みが更に引き立てられるプロモーション活動を行う。</p> <p>今後はこれまでも共に取り組んで来た、ステークホルダーとの合意形成を図りながら地域連携を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

今後も有効的なプロモーション事業を計画・実施しながら、ステークホルダーとの合意形成を得ながら、宜野座の資源を活用し、地域観光地づくりを目指す。また、これまで企画造成してきた、滞在型観光プログラム(オプションツアー)にプラスαし継続的な取組みに向けて質を高める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
52,550	52,550	42,040	10,510	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者の選定は、本村に特化した観光振興を担う唯一の事業所であることから随意契約にて契約しており、その選定は妥当であったと考える。</p> <p>・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。</p> <p>・用途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光産業の振興		
事業内容	スポーツが盛んな秋の行楽シーズンに、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公園を中心とした場所で大花火大会を開催し、宜野座村の魅力を発信することにより観光誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	6,504		7,228	7,787	11,218
		(b) 予算現額	6,504		7,228	7,787	11,218
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0		0	0	
	A. 計 (b+d)	6,504	0	7,228	7,787	11,218	
	B. 執行済額	6,370		6,459	7,020	10,841	
	うち交付金充当額	5,095		5,167	5,616	8,673	
	次年度繰越額			0	0		
	執行率 (%) (B/A)	97.9%	#DIV/0!	89.4%	90.2%	96.6%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。不用額の624千円については、入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	花火の打上	目標	( - )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	-	実施(750発)	実施(1,050発)	実施(1,050発)	
	会場設営	目標	-	-	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	-	-	実施	実施	
	ステージイベント(伝統芸能等)	目標	-	-	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	-	-	実施(15団体)	実施(18団体)	
	PRチラシの作成	目標	-	-	( 作成 )	( 作成 )	
		実績	-	-	作成(40,000枚)	作成(40,000枚)	
警備員の配置	目標	( - )	( 配置 )	( 配置 )	( 配置 )		
	実績	-	配置(16名)	配置(10名)	配置(10名)		
達成状況説明	チラシでの周知や約1,000発の花火を打ち上げることで、目標値の来場者数を達成することに繋がった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	美ら島花火大会集客数(14,500人/2日間)	目標	( )	( 11,200人 )	( 8,540人 )	( 14,500人 )	( )
		実績			562人	14,000人	20,010人
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され、4年ぶりに制限なしの開催となった。2日間とも天候に恵まれ、目標値を大幅に超える来場があり開催を待ち望んでいた様子が伺えた。						

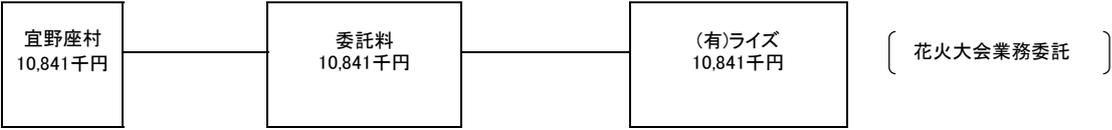
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	会場設営の配置や警備員の配置など、計画から実施まで入念に調整を行い準備した結果、大きな問題なく実施することができた。	契約時期を少し早めPR期間を増やし、県内外からの誘客を図る。

**今後の取り組み方針**

県内外における先進的なイベントや祭りの事例や情報を随時取り入れながら、宜野座村まつり実行委員会と連携して、観光誘客及び村の魅力発信ができるよう開催方法を検討していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
10,841	10,841	8,673	2,168	



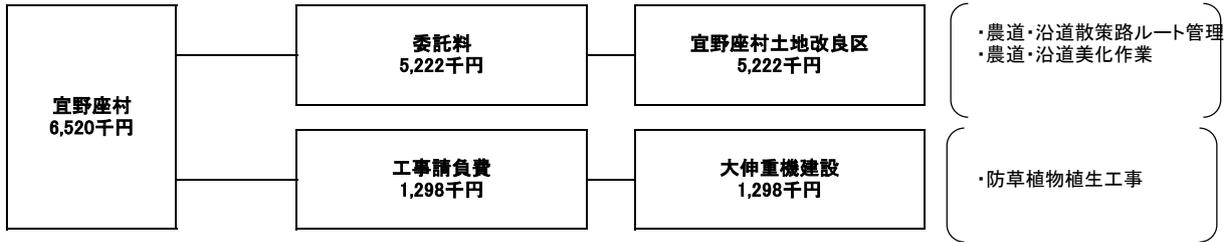
資金の流 れ、 点 検、 費 目・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため、妥当であった。 ○事業費は仕様書通り遂行したため、適正な規模だった。 ○用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について金額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	農村沿道景観向上事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	魅力的な自然環境観光地を形成するため、リゾート観光客の散策路(農道)の美化に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,974	5,222	5,222	5,222	6,533
			2,974	5,222	5,222	5,222	6,533
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
		2,974	5,222	5,222	5,222	6,533	
	B. 執行済額 うち交付金充当額		2,974	5,222	5,222	5,222	6,520
			2,379	4,177	4,177	4,177	5,216
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については工事費の残によるものである。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R5活動目標(指標)	達成状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	美化作業員配置3名	目標	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	
		実績	3名	3名	3名	3名	
達成状況説明	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
		目標	( )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	( )
	【参考指標】	実績		82%	81%	72%	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
進捗状況説明	実績						
	本事業開始前は年間10件程苦情をいただいていたが、開始後5年間の苦情件数は0件であったことから効果があったと考えられる。また、アンケートにおいては、コロナが収束した中で実施した結果、72%の方に沿道の景観が「とてもきれい」との評価をいただいたが、事業開始後初の目標値である80%を下回る結果となった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・これまで宿泊施設周辺付近の農道・沿道においては雑草等が茂り景観が損なわれていたが、年間をとおして草刈り・伐採作業を実施することで観光地の景観形成が図られ、令和5年度も含めて事業開始後の苦情件数は0件であった。</p> <p>・令和5年度は、観光客の多い8月に発生した台風6号による風水被害も景観を損なう要因もあり、観光客層からの厳しいご意見も多く目標値の80%に届かなかった。</p>	<p>・宿泊施設や観光施設におけるアンケート調査を継続して行う。多くの意見を事業に反映できるように獲得枚数の増を目指す。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・草刈による除草に加えて防草植物(クラピア)による事業効率化を図る。コロナの制限解除により観光客も増加しているため、引き続き魅力的な景観を維持出来るように事業を実施していく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
6,520	6,520	5,216	1,304	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託契約先の「宜野座村土地改良区」は、本村の農道の維持管理団体であるため、本事業の目的を達成するために、委託事業者との随意契約は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・工事契約についても地方自治法に沿った随意契約であるため妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・使途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。

市町村名	宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部署名	教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける学校教育の推進	
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を小学校に配置し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施   □委託   □補助   □負担   □その他(   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	15,399	25,089	28,780	28,780	28,780
		(b)予算現額	13,493	17,088	28,780	27,554	28,339
		(c)増減額(b-a)	▲1,906	▲8,001	0	▲1,226	▲441
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	13,493	17,088	28,780	27,554	28,339
	B.執行済額		12,304	14,662	26,466	25,207	25,732
	うち交付金充当額		9,843	11,729	21,172	20,165	20,586
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.2%	85.8%	92.0%	91.5%	90.8%
予算の状況の説明		8名の学習支援員の内、1名が1月に退職し、その後3ヶ月公募者がおらず採用ができなかったため不用額が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	学習支援員配置数 松田小学校2名 宜野座小学校4名 漢那小学校2名	目標	( 8名 )	( 宜野座小4名 ) ( 漢那小2名 )	( 宜野座小4名 ) ( 漢那小2名 )	( 宜野座4名 ) ( 漢那小2名 )	
		実績	8名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	
	【参考指標】 支援児童数	目標	( 493名 )	( 495名 )	( 493名 )	( 510名 )	
実績		497名	509名	505名	512名		
達成状況説明	学習支援8名配置し、小学校児童512名に対し、教諭と連携をとりながら学習支援を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上) ・小学校5年・6年(算数)	目標	( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
		実績	/	5年算数(-4.2) 6年算数(-6.3)	5年算数(-17.4) 6年算数(-7.6)	5年算数(-7.7) 6年算数(+0.7)	/
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	/	/	/	/	/
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果から、小学校5年生の算数においては県平均を上回ることができず、目標は未達成となっているが、小学校6年生の算数では県平均を上回り、目標を達成することができた。						

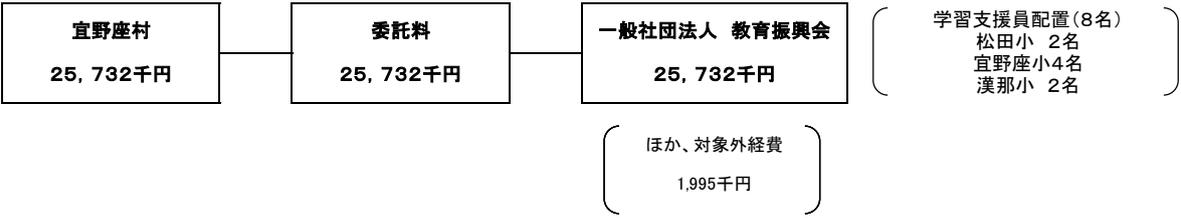
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。(手立てが必要)</li> <li>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で出席停止の期間は少なかったが、新型コロナウイルスの学習への影響で基礎学力の定着が弱い。対面による児童に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が今後とも継続して必要である。</li> <li>放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、時間をかけて取り組む記述式の問題に無回答率が高く、結果的に県平均を上回ることができなかった学年がある。</li> <li>県平均を上回ることができなかった学年に関して、これまでの学習の積み残しが多いため、少しずつ改善はしているが、まだまだ結果につながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別支援などを行い、基礎的・基本的な学力の定着を図り学力向上に結び付ける。</li> <li>放課後補習や長期休業中の学習支援の場を設けるなど学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の定着を図る。</li> <li>教師及び支援員の情報交換を密に行い、授業改善などに取り組む。</li> <li>漢字検定や数学検定など各種検定試験への取組を推奨し、学習意欲の向上や達成感につなげる。</li> <li>学び残しが改善されるよう、引き続き、授業改善や補習指導等を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 放課後補習や長期休業中の学習支援を設けるなど強化することで、各学年で身につけるべき学習内容の基礎・基本事項を定着させるよう取り組む。
- 定期的に学習支援員に対する研修を行い、各学校における取組などを情報共有することで指導員のスキル向上を図る。
- 定期的担当教師との情報交換を行い授業改善を図りながら個別指導や補習授業を通じて、学力向上を図る。
- 漢字検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、学習意欲向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。
- 無回答率の高い問題の分析を行い、個々の課題把握に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
27,727	25,732	20,586	5,146	1,995



資金の流 れ、費 目・ 使 途	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をポロポーザル方式により選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いは出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村
------	------

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	中学校学力向上対策事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける学校教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容  
 学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を中学校に配置し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行う。

効果発現年度  
 当年度       後年度(      年度)

実施方法  
 直接実施     委託       補助       負担       その他(      )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	14,640	15,681	17,987	17,987	17,987
		(b) 予算現額	14,770	12,681	17,987	15,768	16,934
		(c) 増減額(b-a)	130	▲ 3,000	0	▲ 2,219	▲ 1,053
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	14,770	12,681	17,987	15,768	16,934
		B. 執行済額	11,343	11,738	15,447	13,407	15,254
		うち交付金充当額	9,074	9,390	12,357	10,726	12,203
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	76.8%	92.6%	85.9%	85.0%	90.1%
		予算の状況の説明	学習支援員の無休休暇取得等により、不用額が生じた。				

活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
学習支援員配置数等 宜野座中学校 5名 (英語、国語、数学、社会、国語・社会)	目標	( 5 名 )	( 5 名 )	( 5 名 )	( 5 名 )
	実績	4 名	5 名	5 名	5 名
【参考指標】 支援生徒数	目標	( 232 名 )	( 232 名 )	( 244 名 )	( 249 名 )
	実績	232 名	241 名	246 名	253 名
達成状況説明	学習支援を5名配置し、中学校生徒253名に対し、教諭と連携をとりながら学習支援を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
		目標	( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )
	実績	/	中2国語(-0.9) 中2数学(-2.8) 中2英語(-1.6)	中2国語(-4.6) 中2数学(-6.0) 中2英語(+0.7)	中2国語(-4.8) 中2数学(-10.0) 中2英語(-8.4)	/
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果、中学校2年生国語、数学、英語において県平均を上回ることができなかった。					

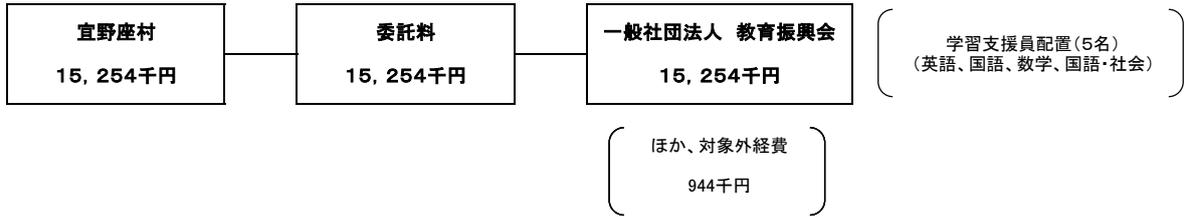
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。(手立てが必要)</li> <li>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で出席停止の期間は少なかったが、新型コロナウイルスの学習への影響で基礎学力の定着が弱い。対面による生徒に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が今後とも継続して必要である。</li> <li>平日や定期テスト前だけでなく、放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、時間をかけて取り組む記述式の問題に無回答率が高く、結果的に県平均を上回ることができなかった。</li> <li>県平均を上回ることができなかった理由として、これまでの学習の積み残しが多いため、少しずつ改善はしているが、まだまだ結果につながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別の学習支援などを行うことで、基礎学力の定着を図り学力向上に結び付ける。</li> <li>学習内容の定着に落ち込みのある単元に対する補習や学習支援を重点的に行う必要がある。</li> <li>放課後補習や長期休業(サマースクール)の学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>教科担任と課題を共有しながら、ICT機器等を活用し、個に応じた課題の解決を行うなど、生徒の学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る。</li> <li>漢字検定や数学検定、英語検定など各種検定試験への取組を推奨し、放課後等の補習で試験対策を行い、資格試験を通じて合格をめざし、チャレンジすることで意欲の向上につなげる。</li> <li>学び残しが改善されるよう、引き続き、授業改善や補習指導等を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・県学力到達度調査などの諸調査分析から基礎・基本事項の定着状況を把握し、個別指導や補習授業など個に応じた指導を工夫するなどして基礎基本の向上を図る。  
 ・授業中の学習支援や放課後の補習などについては、個の課題を明確にし事前に手立てを確認し、放課後補習や長期休業の学習支援(サマースクール)を実施することで、自らの課題を自覚させ、学力の基礎・基本の理解とその定着を図る。  
 ・漢字・数学・英語検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、多様な学ぶ機会を通じ学習意欲の向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
16,198	15,254	12,203	3,051	944



資金の流 れ 点 検 査 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をポロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いは出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
<b>令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア		
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	誰もが安心して子育てができる環境づくり		
事業内容	保護者が安心・安全に子どもを預けることで、育児における負担感の軽減を図るため、私立幼稚園において預かり保育を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,550	14,233	15,108	17,024	20,764
		(b)予算現額	11,550	11,942	15,108	17,839	19,331
		(c)増減額(b-a)	0	▲2,291	0	815	▲1,433
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	11,550	11,942	15,108	17,839	19,331
	執行率(%) (B/A)	B.執行済額	10,474	11,942	13,076	16,297	17,985
		うち交付金充当額	7,920	9,553	10,460	13,038	14,388
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>給与の改定に伴う遡及により、最終補正にて給与額404千円を増額した。</li> <li>預かり保育担当者が採用できず、職員が不足している期間が発生したため、最終補正にて賞与額882千円を減額した。</li> <li>対象外経費が発生したため、1,227千円を減額した。</li> </ul>					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況					
	預かり保育担当職員配置数 ・松田幼稚園 2名 ・宜野座幼稚園 4名 ・漢那幼稚園 2名	目標	松田幼 2名 (宜野座幼 3名) 漢那幼 2名	松田幼 2名 (宜野座幼 2名) 漢那幼 2名	松田幼 2名 (宜野座幼 3名) 漢那幼 2名	松田幼 2名 (宜野座幼 4名) 漢那幼 2名	
		実績	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育担当者7名を雇用し、松田幼稚園2名、宜野座幼稚園3名、漢那幼稚園2名を配置した。</li> <li>担当者を7名雇用できたことで、園児の安全確保や保育サービスの充実につながり、預かり保育を希望する67世帯全員を受け入れることができたため、受入率100%を達成できた。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
	対象となる園児の保護者へアンケートを行い、「安心安全に子供を預けることができ、園児の負担感が軽減されたと感じたか(80%)」を含め事業の在り方を検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	( )
		実績		100%	100%	100%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる園児の保護者に対してアンケートを実施したところ、「安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減された」と回答した世帯の割合は100%となり目標を達成した。</li> <li>通園する園児の世帯の内、約9割以上が共働き家庭や産前・産後・育児休暇を取得中の世帯、家族の介護等により午後の預かり保育が必要なため、担当者7名を配置できたことで保護者への午後の預かり先を提供でき、子育て世代の多様化するニーズに応えることができた。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>各園に預かり保育担当者を配置できたことで、保護者と園児に対して柔軟な対応や園児の安全確保が可能となり、保護者の満足度100%に繋がった。</li> <li>引き続き園務支援システムを活用し、アプリを通して保護者との連携がスムーズに行われるようになったことで、預かり保育に対する安心感につながった。</li> <li>園毎に利用者数や地域性の差異があるが、どの園も安心・安全な環境下で実態に応じた柔軟な保育を実施することができた。</li> <li>前年度と同様に幼児教育に関する研修を行ったことで、担当者の視点や理解に一定の水準が生まれ、園毎の差異があっても全ての園で同様のサービスを提供することができた。</li> <li>「不適切な保育」について研修を行い、日頃の保育の振り返りや今後の保育について改める場を設けることができた。</li> <li>パソコンスキルに関する研修を行ったことで、日誌等の各種様式の操作がスムーズになったため、事務の時間が短縮され改善につながった。</li> <li>日誌やおやつ表、園児の出席簿等の提出物について、年度の初めに入力方法や考え方の研修会を行った。提出物は全てExcel管理に変更し、提供したデータ全てに数式を組み様式を統一したことにより、担当者同士で教え合いながら役割分担を行う様子が見られ、全体の事務改善につながった。</li> <li>家庭の事業や本人の特性により、配慮が必要と思われる園児が複数いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各園の実態に応じた効果的なサービスを提供するため、専門家を招聘した研修の充実を図る。また、ネット研修も積極的に活用する。</li> <li>園毎に利用者数や地域性の差異があるため、引き続き実態に応じた柔軟なサービスを提供し、保護者の満足度に繋げる。</li> <li>引き続き、配慮が必要な園児を観察し、スムーズな就学に向けた職員間の連携を図る。</li> <li>家庭の事情や本人の特性により配慮が必要と思われる園児が複数いるため、教育課程の時間の職員と連携し、保護者と園児に対して慎重且丁寧な対応を心掛ける必要がある。</li> <li>教育課程の時間に勤務する職員と更なる連携を図る。</li> <li>令和5年度末に各園へタブレット端末が導入され、幼稚園のICT化がさらに進むため、ICTスキルの向上や個人情報保護に関する研修を実施し、学びの場を提供する必要がある。</li> <li>引き続き、不適切な保育に関する研修を実施し、日頃の保育について振り返りと共有の場を提供する。</li> <li>現在行っている事務作業をさらに見直し、事務作業の効率化を図る。</li> <li>様々な方法で職員を公募したが、応募がなく職員の不足が発生した。</li> </ul>

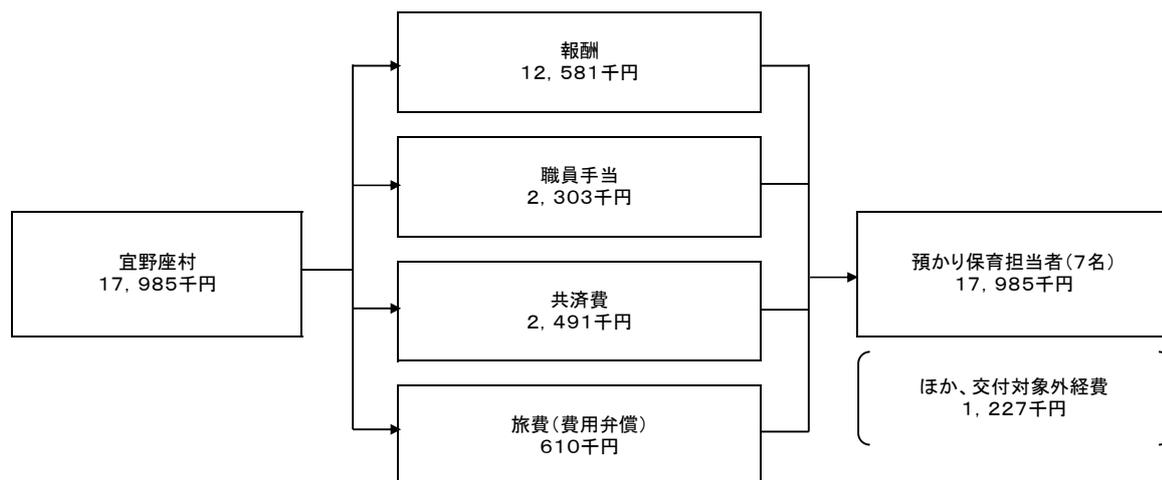
今後の取り組み方針

- 実態に応じた効果的なサービスを提供するため、引き続き専門家を招聘した研修を実施する。特に配慮が必要と思われる園児との関わり方や、他職員との連携に必要な教育課程の基礎知識に関する研修に取り組む。
- 充実したサービスが提供できるよう、引き続き担当者の困り感や日頃の保育について「共有できる場」を定期的で開催する。
- 不適切な保育に関する研修を実施し、担当者が子どもの権利や同様の認識で園児に接することができるよう
- 配慮が必要と思われる園児に対し、園児の特性や家庭環境、保護者の困り感等を職員間で常に共有することで、園児がスムーズに就学できるよう連携体制を強化する。
- 更なる事務作業の効率化を図るため、提出物の精査や簡略化を実施し、同時にパソコンスキルの向上に関する研修を実施する。
- 引き続き、園務支援システムの取扱いに関する研修やICT機器の取扱いに関する研修を実施する。
- 引き続き公募を行いながら公募方法を模索し、現在雇用している職員がステップアップしながら長く勤め続けられる環境づくりに取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
19,212	17,985	14,388	3,597	1,227



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○担当者の雇用については、地方公務員法第22条の2第1項第1号に基づいており、雇用は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○担当者の配置数については、宜野座村立幼稚園預かり保育に関する規則に基づき積算しており、適切な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、預かり保育に要するものであり、必要な物に限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

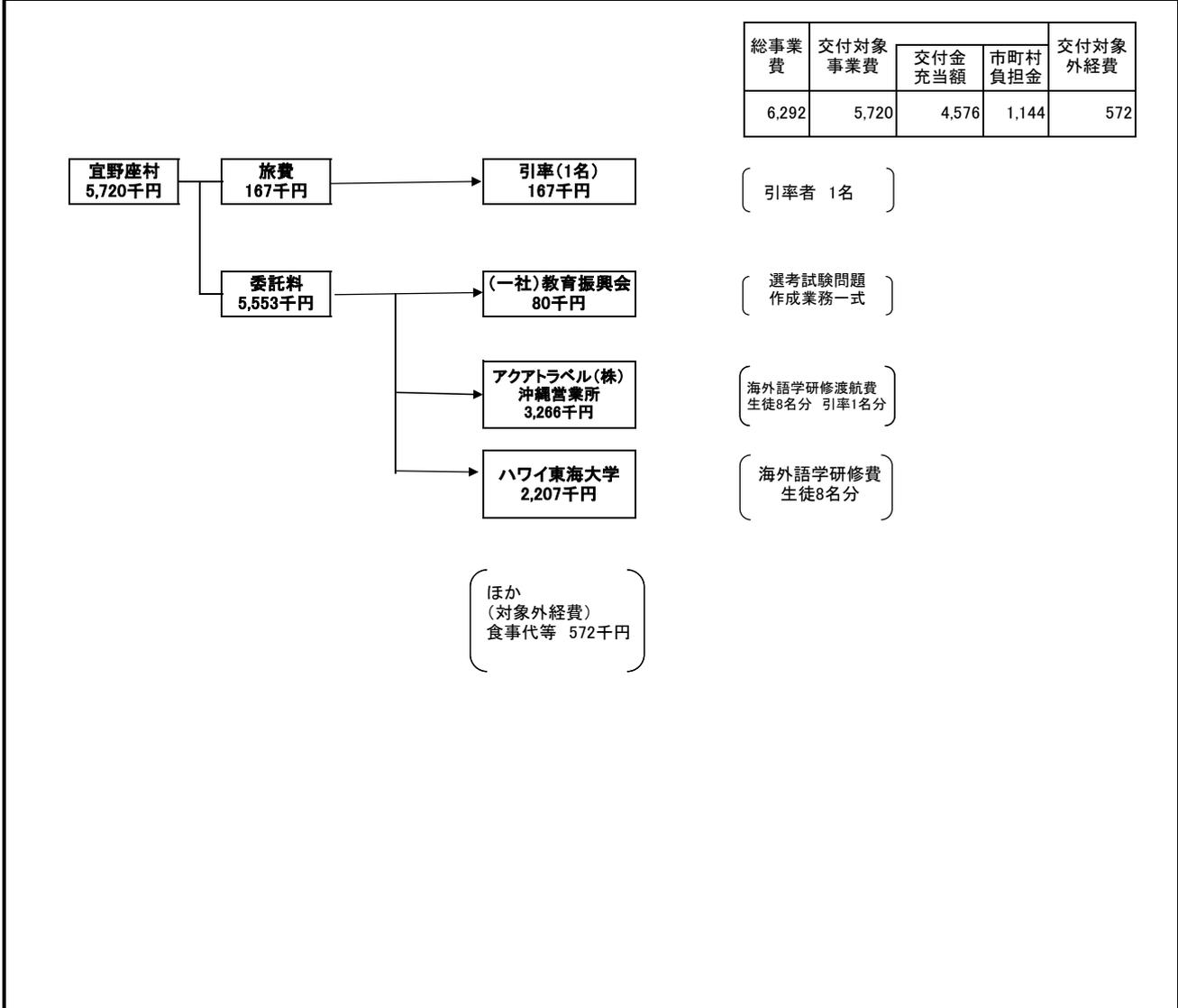
市町村名	宜野座村						
<b>令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-④	宜野座村ジュニア海外語学研修派遣事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育課	事業実施 (予定)年度	平成28年～令和13年 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材を育成するため、夏休み期間中に村内の中・高校生8名を英語圏へ派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (      )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R5年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	3,600	4,797	4,505	4,645	10,200
		(b) 予算現額	4,563	4,105	3,813	4,645	6,959
		(c) 増減額(b-a)	963	▲ 692	▲ 692	0	▲ 3,241
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	4,563	4,105	3,813	4,645	6,959	
	B. 執行済額	4,142	3,871	3,812	3,538	5,720	
	うち交付金充当額	3,281	3,096	3,050	2,830	4,576	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	90.8%	94.3%	100.0%	76.2%	82.2%	
予算の状況の説明	研修参加の為替レート変動等の関係により、1,171千円の不用が生じた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R5活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R5年度	
	・研修先:アメリカ合衆国(ハワイ州) ・内容:現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流など ・ホームステイ7泊、大学寮11泊	目標	( 6名 )	( 6名 )	( 6名 )	( 8名 )	
		実績	6名	6名	6名	8名	
	達成状況説明 令和5年7月21日から8月10日の21日間(大学寮11泊、ホームステイ7泊)中・高校生8名をアメリカ合衆国ハワイ州へ派遣し、現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流を行った。	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
実績							
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R5年度	目標値(年度)	
		目標	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
	実績		83%	80%	88%		
	【参考指標】	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績					
進捗状況説明	生徒の帰国後、保護者へ生徒の英語学習への意欲や国際的な視野が広がったかについてのアンケートを実施したところ、80%以上の保護者が本事業の成果を実感し、肯定的な回答を得ることができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話への苦手意識があり、研修中に無言になる事があった。渡航前に苦手意識を克服できるような取り組みを行う必要がある。</li> <li>・研修先の環境や研修内容の詳細をしってもらう取り組みが必要である。</li> <li>・研修を受けた生徒たちが、英語学習への意欲や広い視野で物事を捉えられる人材になっているか確認する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話への苦手意識を克服するため、現在行っている英会話教室を今後も続ける必要がある。</li> <li>・オリエンテーション及びOBとの説明会を開催することで、現地の詳細を経験者から聞くことができ、不安解消や現地でのギャップを小さくすることが可能であるとする。また、事前に父母も同伴で現地での受け入れ家族及び村人会の皆さんとWEBにて現地の情報を知ることができるので、行っていく必要がある。</li> <li>・過去に当該研修に参加したOBへ、事後アンケートを実施する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・研修先での使用頻度の高い英会話教室(3回)を渡航前に開催する。生徒及び引率者、生徒同士の信頼関係を構築する場とするため、英会話教室は引率含め全員参加する。
- ・研修先の具体的な過ごし方や現地の様子を知るために、OBの話や、現地の村人会とのWEB会議を開催する。
- ・過去に研修に参加した生徒へアンケートを実施し、本事業が英語学習への意欲と人材育成にどう影響したのか事後検証を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○旅費は見積入札を実施し、最低価格業者と契約。研修先は実績と研修生の学習と安全を考慮し適正に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は見積を徴取して策定したため、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者も費用の一部を負担しており、私的な費用についても受益者の負担としたため妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名		宜野座村					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①		有機の里宜野座村確立事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ	
	担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
事業内容		有機の里宜野座村を目指し、沖縄県環境保全型農業推進協議会の認証を受けたエコファーマーの増加並びにエコ農産物の販売量の拡大を図るため、減農薬や、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,354	12,361	13,249	8,942	8,942
		(b) 予算現額	11,252	12,260	13,249	7,153	8,587
		(c) 増減額(b-a)	△ 102	△ 101	0	△ 1,789	△ 355
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	11,252	12,260	13,249	7,153	8,587
	B. 執行済額		11,252	12,260	13,053	8,602	8,587
	うち交付金充当額		9,002	9,808	10,442	6,881	6,869
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.5%	120.3%	100.0%
予算の状況の説明		概ね計画どおりに事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	目標	減農薬、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。詳細内容は以下の通り。 ・有機の里宜野座村推進協議会 ・アドバイザーの招聘 ・専門技術員の配置 ○農業栽培指導員1名 ○土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員・エコ販売袋・シール等の購入1名	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	
		実績	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	協議会・部会開催 アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入	
	目標	①栽培指導回数(480回) ②生産販売目標(116t)	( 480回 ) ( 116トン )				
	実績		574回 78トン	581回 65トン	594回 66.4トン	599回 57.6トン	
達成状況説明	・農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につなげた。 ・土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員により、エコファーマー認定取得のための技術指導や認定申請書作成の支援を行った。 ・農業栽培指導技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数の目標480回に対して、599回の指導を行うことが出来た。しかし、新型コロナの影響で、島ラッキョウ・赤モーウイ・かぼちゃ・パインの注文が大幅に減少したことなどから販売目標の116トンを下回る57.6トンという結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	【参考指標】 エコファーマーの認定者数	目標	( )	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	( )
		実績		0名	0名	0名	
	エコ農産物販売目標	目標	( )	( 116トン )	( 116トン )	( 116トン )	( )
実績			65トン	66.4トン	57.6トン		
進捗状況説明	・新規のエコファーマーの認定者は0名であり、目標の3名を達成することができなかった。 ・販売目標額については、市場価格の変動等もあり数字が出せない状況である。 ・去年は天候不良(長雨、日照不足)等もあり、出荷量が増えなかった。						

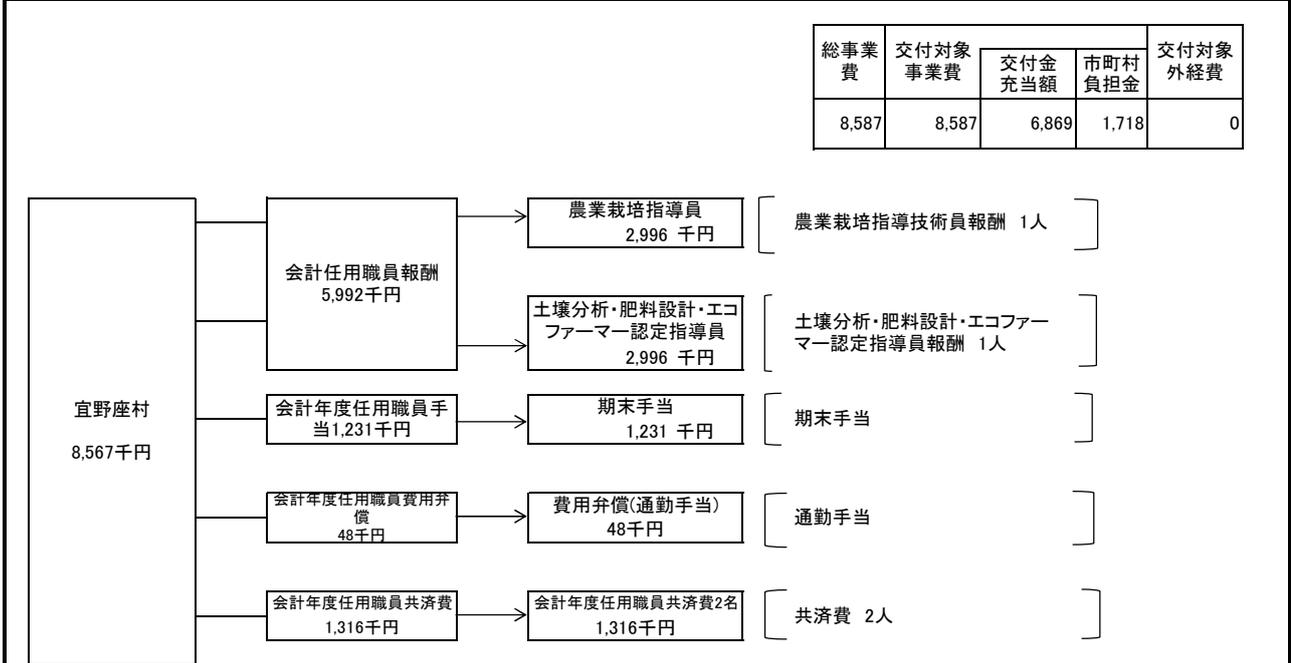
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認証について3人の新規認定取得を目標とし、認定希望者や新規就農者等に認定取得の呼びかけをしたが、希望者は0名であった。 ・農作物の収量の確保(収入増)ということで化学肥料に頼りがちな農家がいる。 (エコ農産物販売量) ・近年は天候、新型コロナの影響、連作障害等畑のコンディション不足が重なり農産物販売量は57.6トンと達成率にして約49.6%と目標数値を下回っている。	(エコファーマーの認定者数) ・エコファーマー認定者数は令和3年度までに30名を目標としていたが、平成24年度から令和3年度までの実績は41名となっており、目標を達成している。しかし高齢化が進んでいるため継続して認定取得者を確保していきたい。 ・生産者に説明をして安心安全な宜野座ブランドという付加価値の構築をしていきたい。 ・次年度は収量を増やすため有機農法の土づくりの講演会を計画する。 (エコ農産物販売量) 栽培指導員の指導の元、連作障害等の課題は克服しつつある。 また、販売市場や社会情勢も回復が見込まれており、生産者の意欲も向上しているため今後は販売量に関して回復が見込まれている。

**今後の取り組み方針**

(エコファーマーの認定者数)  
・村の特産品加工直売センターと連携し、直売センター内にてエコファーマー専用のブースを設け他農家との差別化を図り、生産農家にエコファーマー認証取得のメリットを周知し、認定取得希望者を募り栽培指導員と連携し、栽培指導と認定手続きの支援を行うことで認定取得につなげる。

(エコ農産物販売量)  
・作物の種類については、取引先より需要のある作物の情報を得たうえで、試験的な栽培を行いながら、栽培環境が適していると判断した場合に生産拡大を行っていく。また、需要も踏まえ天候等環境要因の影響を受けにくい夏野菜の栽培を継続・検証しながら天候の影響が小さくなるよう、取り扱い品目を増やして安定的な販売量の確保に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○協議会委員の選定については、農業関係機関の代表や地域の代表、行政機関の代表など多方面からの意見を集約できるよう選定しており、会計任用職員についても、営農指導の経験豊富な者・農業関連の専門的知識を有する者・販路開拓の経験を有するものを選定していることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○エコファーマーラベル製作については見積を徴取し最低見積業者に発注しており、妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委員報酬・会計任用職員報酬・農業経営アドバイザーの報償費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき積算しており、適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。

市町村名	宜野座村						
<b>令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	3-②	さとうきび営農指導委託事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定等の強化		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所			
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびの増産を図るため、営農指導員による管理作業や営農指導を行う。また、担い手を確保し、講習会を実施する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,323	1,332	1,332	1,332	1,337
		(b) 予算現額	1,323	1,332	1,332	1,332	1,337
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	1,323	1,332	1,332	1,332	1,337	
	B. 執行済額	1323	1332	1,332	1,332	1,336	
	うち交付金充当額	1058	1065	1,065	1,065	1,069	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	営農指導による管理作業の指導・担い手を確保し、営農指導や講習会を実施する。	目標 ( 1名 )	( 1名 )	( 1名 )	( 1名 )		
	・営農指導員配置1名	実績 1名	1名	1名	1名		
	目標 ( )	( )	( )	( )			
	実績						
達成状況説明	営農指導員1名を配置し、さとうきび栽培農家470名(延べ人数)に対し指導を行った。営農指導は、農家や新規農家が積極的に栽培方法を聞いたり、会議にも参加し助言するなど、本村のさとうきび栽培に重要な役割を担っている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
	令和5年さとうきび生産量	目標 ( )	( 5,084t )	( 5,084t )	( 5,267t )	( )	
		実績	/	5,348t	5,102t	4,043t	/
		目標 ( )	( )	( )	( )	( )	
	実績	/				/	
進捗状況説明	令和5年度生産量の実績値は4,043tとなり、前年度より1,059t減産となった。8月上旬の台風6号の甚大な被害及びその後の少雨の影響で思うように収量が伸びず、大幅な減産となり目標収量には届かなかった。しかし、農家一人ひとりに対して営農指導することにより病害虫の対策や肥培管理などの作業を効率よく行えた。						

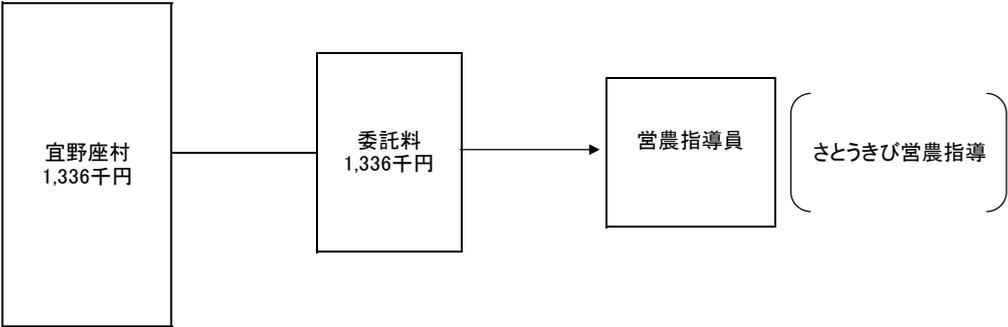
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	営農指導により適期から作業が遅れる農家が少なくなったが、農業者の高齢化等で管理不足の圃場が見受けられるほか、離農・田作物転用により栽培面積が減少している。	高齢農家に対しては、営農指導員による指導を徹底する。肥培管理作業等の遅れがあるので、適宜管理を徹底させる。また、栽培面積減少の理由として田作物転作等があり、さとうきび農家の後継者育成の向上・生産の反収増を図る。

**今後の取り組み方針**

今年度は台風や干ばつの影響で減産となったものの、昨年までの直近3年間の平均生産量は5,100tと安定して収量を確保できるようになってきている。令和6年度も適期管理作業等の指導を徹底し、さとうきび生産の反収増、担い手の育成・確保に取り組んでいく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

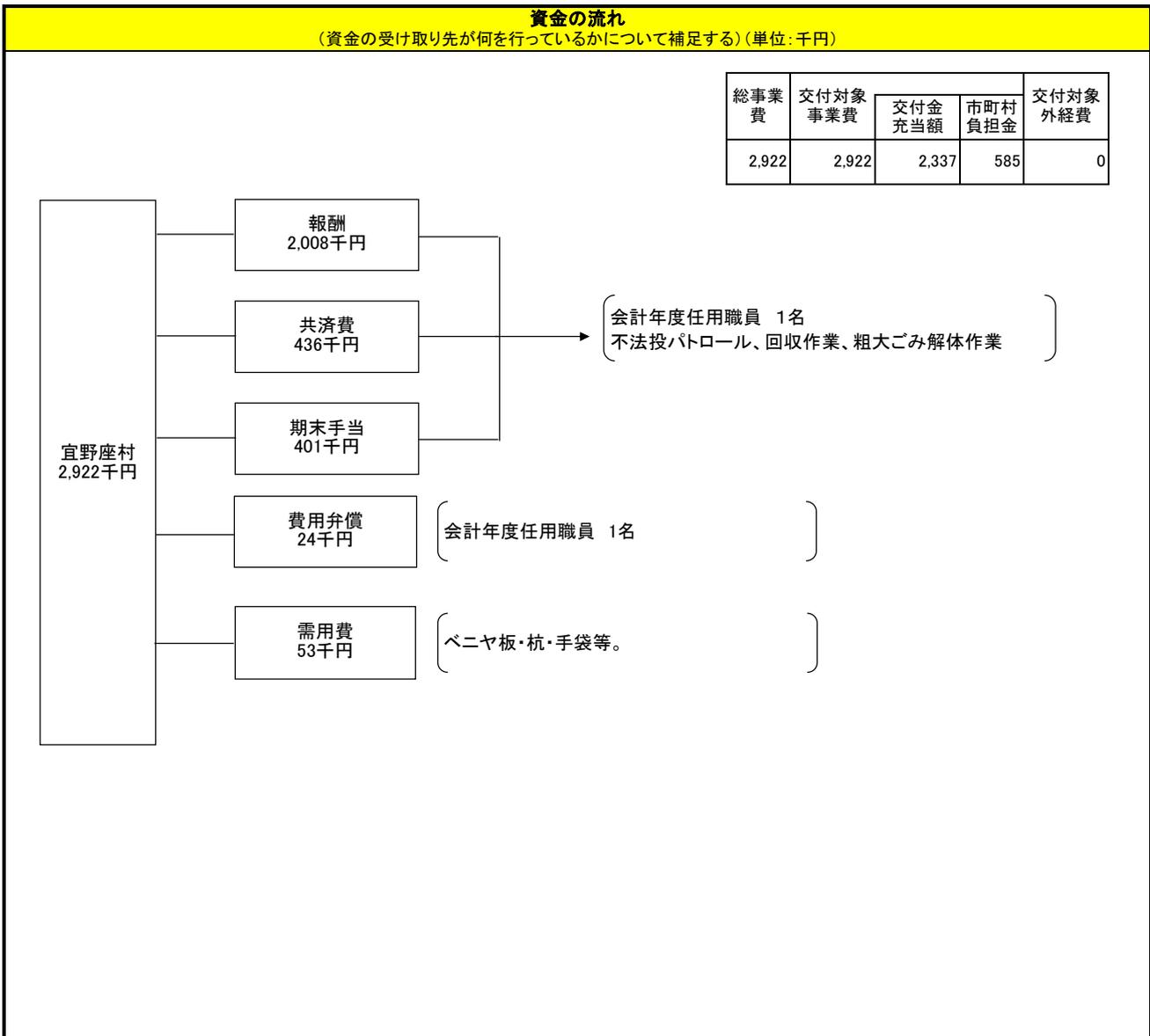
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,336	1,336	1,069	267	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託者は専門的知識を有し、経験年数や経歴等に鑑みて随意契約を締結している。本業務は専門的知識等が必要なため、他に本業務を遂行できるものがないことから妥当である。 ○宜野座村会計年度任用職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に実施している。 ○費用・使途について、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	観光地の景観向上を図る。村の観光ルート等に不法投棄が多く、景観が損なわれているため、パトロールや不法投棄物の撤去を実施。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,039	4,697	4,987	2,719	2,761
		(b) 予算現額	4,005	4,650	4,987	2,721	2,922
		(c) 増減額(b-a)	▲34	▲47	0	2	161
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	4,005	4,650	4,987	2,721	2,922
	B. 執行済額		4,005	4,650	4,985	2,721	2,922
	うち交付金充当額		3,204	3,719	3,987	2,176	2,337
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予定した事業内容を計画通り実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	監視・作業員配置1名 ・監視カメラによる監視 ・観光ルートのパトロール ・放置された不法投棄物の撤去、解体 ・不法投棄防止看板の設置	目標	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置)	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置)	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置)	(パトロールの実施 不法投棄回収 粗大ゴミ解体 不法投棄防止看板の設置)	
		実績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
達成状況説明	監視・作業員配置1名を配置し、これまで不法投棄のあった場所の監視カメラによる監視、不法投棄防止看板の設置、観光ルートのパトロール、放置された不法投棄物の撤去を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	・観光地における不法投棄0件/年	目標	( )	( 10件/年 )	( 10件/年 )	( 0件/年 )	( )
		実績		0件/年	0件/年	0件/年	
	【参考指標】 ・観光地ルートの景観向上(観光客から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。):満足度%	目標	( )	( 70% )	( 70% )	( 70% )	( )
		実績		88%	87%	76%	
	進捗状況説明	観光地における不法投棄件数は1年間で0件であり、目標値を達成した。 また、達成状況の客観的確認として、観光施設でのアンケート調査を実施し、目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>広大な自然環境を生かした着地型観光を推進する本村は、これまで自然景観を損ねる不法投棄物が多かったが、本事業の実施により、松田鍾乳洞等の観光地での不法投棄が4年間(令和2~5年度)0件である。</p> <p>令和4年度は、監視カメラが届かない場所への不法投棄対策として、ダミーカメラ、注意喚起の看板の設置、パトロールの回数を増やした。</p>	<p>従来のパトロールのルート変更や時間帯を変える等改善を検討し、さらなる不法投棄の抑制を図る。</p> <p>また、各区に配属している環境監視員をはじめ、区長さんと住民と連携を図り、不法投棄を見かけたらすぐに連絡するよう促し、村民全体で、不法投棄に対する意識啓発をおこなう。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>不法投棄パトロールのルート変更や時間帯を変動し、効率的に不法投棄を監視・抑制し、不法投棄の減少を図り、着地型観光の推進につなげる。また、村委嘱の環境監視員だけでなく、その他地域住民の協力を得て、村民みんなで不法投棄防止に対する意識を高めるよう連携を継続して図っていく。</p>		



資金の流 れ、費 用目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 用目	○	支出先の選定方法は妥当か。	・監視・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	危険生物駆除捕獲事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27~令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	観光客や修学旅行生等の安全を確保することを目的とし、ハブやハチ等の咬傷事故等を未然に防ぐため、捕獲器の設置や観光地のパトロールを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,750	4,277	4,512	4,491	4,605
			3,750	4,217	4,512	4,445	4,434
			0	▲60	0	▲46	▲171
			3,750	4,217	4,512	4,445	4,434
		B. 執行済額	3,707	4,217	4,488	4,445	4,434
		うち交付金充当額	2,965	3,373	3,590	3,556	3,547
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	98.9%	100.0%	99.5%	100.0%	100.0%
		予算の状況の説明					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	観光地パトロールの実施	目標	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )	
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	12回/月	
	ハブ捕獲器設置	目標	( 150箇所 )	( 150箇所 )	( 150箇所 )	( 150箇所 )	
実績		140箇所設置	119箇所設置	112箇所設置	101箇所設置		
ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	目標	捕獲・駆除0件 ( 件 ) 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 ( 件 ) 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 ( 件 ) 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 ( 件 ) 専門員2人の配置		
	実績	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置		
達成状況説明	・観光地パトロールを1年間、月12回実施し、目標を達成した。またパトロールと合わせてハチ等がないか確認を行った。 ・村境界付近101箇所にハブ捕獲器を設置し、ヒメハブ3匹、アカマタ3匹の捕獲・駆除を行った。突発的な状況や修繕等に対応するために捕獲機の在庫確保を行ったことにより、101箇所の設置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	観光客及び住民のハブの咬傷被害件数:0件	目標	(      )	( 0件 )	( 0件 )	( 0件 )	(      )
		実績		0件	0件	0件	
進捗状況説明	今年度も観光地付近において咬傷被害が0件であり、目標は達成となった。なお、観光地におけるハブ・ハチ等への苦情は0件であった。今後も観光客が安心安全で観光できる環境を継続していく。						

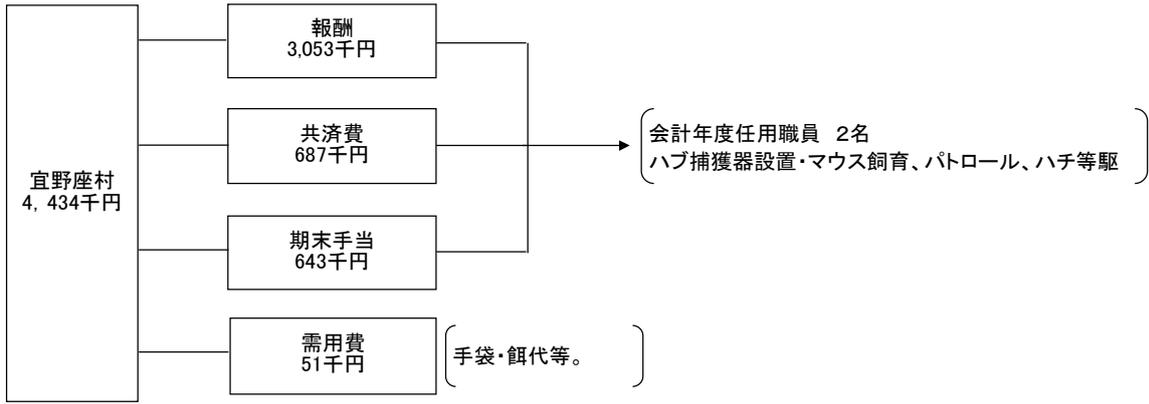
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>捕獲については、目撃情報を基に設置場所を移動したことにより、ヒメハブ3匹、アカマタ3匹が捕獲された。</p> <p>捕獲場所においては、住宅地域、郊外関係なく捕獲されているが、重点的に対策しているエリア外での目撃や咬傷被害、捕獲情報が多々あるため、エリアを拡大して、観光地へのハブ等の危険生物が侵入するのを防ぐ必要がある。</p>	<p>公共工事や地域清掃などにより区画の整備が行われるとハブ等の目撃情報があるため、情報収集に努め、適宜パトロールや捕獲器設置エリアを見直し、効果的に捕獲・駆除ができるよう取り組む。</p>

**今後の取り組み方針**

今後も目撃情報を元にパトロールや捕獲器設置エリアを適宜見直し、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,434	4,434	3,547	887	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(3)-イ	
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和13年		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な情報通信拠点施設の形成  Ⅲ-1-(2)	
事業内容	企業の誘致を図るため、県外ITイベントにおけるブース出展や情報系企業の招聘セミナーを実施する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	□直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,081	14,795	13,519	14,014	14,014
		(b) 予算現額	14,081	11,495	13,519	14,014	14,014
		(c) 増減額(b-a)	0	▲3,300	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	14,081	11,495	13,519	14,014	14,014	
	B. 執行済額	14,081	11,495	13,519	14,014	14,014	
	うち交付金充当額	11,264	9,196	10,815	11,211	11,211	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	事業計画通りに執行した。						
活動目標(指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	招聘セミナーの実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	県内外のITイベントへの企業誘致PRブースの出展	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外からIT関連企業を対象として、令和5年9月に本村へ招聘セミナーを実施した結果、11社16名を本村へ招聘することができた。</li> <li>・令和5年11月に沖縄アリーナで行われた「Resor Tech EXPO2023 in OKINAWA」へ宜野座村観光協会と共同ブースを出展した結果、82件のアンケート回収ができた。また、令和5年11月にワーケーションモニターツアーとして3社5名の県外企業が参加、名護市民会館での「TSUNAGU CITY 2024 in NAGO」では200名の出展ブース訪問があり様々な方へ施設のPRができた。</li> </ul>						
成果目標(指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
		目標	(      )	( 10社/20名 )	( 10社/20名 )	( 10社/20名 )	(      )
	招聘セミナーの参加者数	実績	11社/18名	11社/15名	11社/16名		
	県内外のITイベントへの企業誘致PRブースの出展	目標	(      )	( 250名 )	( 200名 )	( 250名 )	(      )
		実績	43名	502名	282名		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招聘セミナーに関して、コロナ禍での通常開催(10社20名)を目標に行った。1名辞退者も出たが、関東や関西、九州の参加者へ向け施設のPRができた。</li> <li>・今回初の試みとしてResor Tech EXPO2023 in OKINAWAへ宜野座村観光協会と2団体で共同ブースを出展し、ご来場いただいた82名の方々へ施設のPRができた。またワーケーションモニターツアーとして3社5名の企業へワーケーションスポット活用アピールを行った。名護市でのイベントでは県内外にお住まいの一般来場者へ向け施設PRを行った。</li> </ul>					

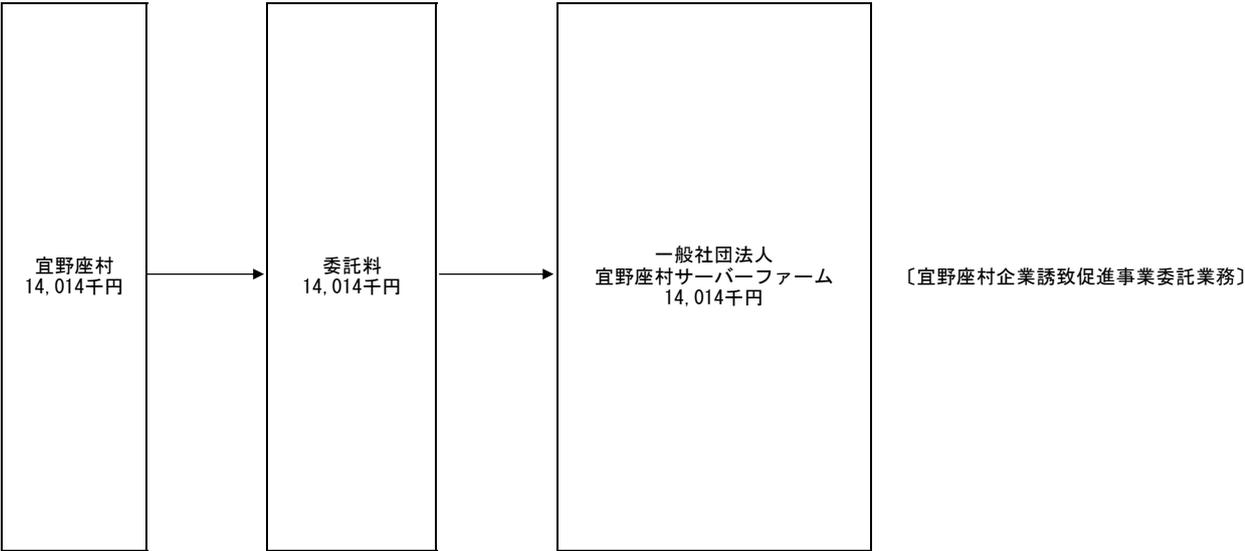
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招聘セミナー参加者は16名と目標に届かなかったが11社参加があり、施設及び村のPRが図れた。企業訪問や視察対応を積極的に行い、令和6年4月より1社入居となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村へ進出企業獲得に向けて更なる誘致・PR活動を実施する。</li> <li>・進出企業が求めるオフィス規模・社員数・住環境を意見交換し継続的な連携強化する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・本事業による接触企業に対するフォローアップ営業を強化する。
- ・新オフィスやコワーキングスペースの利用促進のためのPRを行う。
- ・働き方改革によるワーケーション推進に力を入れ、豊かな自然を活かしたアクティビティなど本村の強みをアピールし、時代の流れに沿った戦略的な企業誘致に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
14,014	14,014	11,211	2,803	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、本事業の目的を達成するために、委託事業者との随意契約は妥当であったと考えている。</li> <li>・予算規模については、人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であるとする。</li> <li>・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-4-(2)-ア		
	担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成29年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	
事業内容	宜野座村出身者海外移住者子弟4名を招聘し、3ヶ月間の研修を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			平成28年度	平成29年度	平成30年度	R1年度	R5年度
	予算の状況	(a) 当初予算額		5,998	6,548	5,997	6,389
		(b) 予算現額		5,998	6,548	5,997	7,791
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	1,402
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	0	5,998	6,548	5,997	7,791
	B. 執行済額			5197	5346	4,758	7,284
	うち交付金充当額			4157	4277	3,806	5,827
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	86.6%	81.6%	79.3%	93.5%
予算の状況の説明		ほぼ事業計画通り予算を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			平成29年度	平成30年度	R1年度	R5年度	
	海外移住者子弟を研修生として受入れ、日本語や沖縄の伝統芸能などの習得及び村民や県民との交流を通して、双方の発展や国際交流、友好親善に繋げる。		目標 (3カ月)	(3カ月)	(3カ月)	(3カ月)	
			実績 4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	日本語講座、文化講座(8～10月)、琉舞研修(9～10月)を実施。また、研修期間中、研修生は村内保育所(園)をはじめ、村立小・中学校、青年会、地域のお年寄りとの交流を行ったことで、幅広い年齢層との親睦を深め人的ネットワークの構築と多様な交流の推進に努めた。海外に宜野座村人会が結成されているペルー、アルゼンチン、ブラジル、アメリカ合衆国ハワイ州の4カ国からそれぞれ1名の子弟研修生を受け入れ、日本語や沖縄の伝統芸能の習得及び村民との交流を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	平成30年度	R1年度	R5年度	目標値(年度)
	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成が図られたかを指標化することは難しいため、沖縄の文化や歴史により一層興味を持ったかをアンケートで図ることにより、架け橋となる人材育成が図られたかを確認する。指標としては大多数がより興味を持ったと考えられる数値として「80%以上」と設定した。また村人化へアンケート調査をすることにより、受入研修生の帰国後の活動状況を把握する。		目標 ( )	(80%)	(80%)	(80%)	( )
			実績	100%	100%	100%	
	【参考指標】報告書の作成		目標 ( )	(100%)	(100%)	(100%)	( )
			実績	100%	100%	100%	
進捗状況説明	受入れた研修生並びに各国宜野座村人会長へアンケートを行ったところ、全員から、沖縄の文化や歴史などにより興味を持つようになったとの回答があり、目標を達成した。						

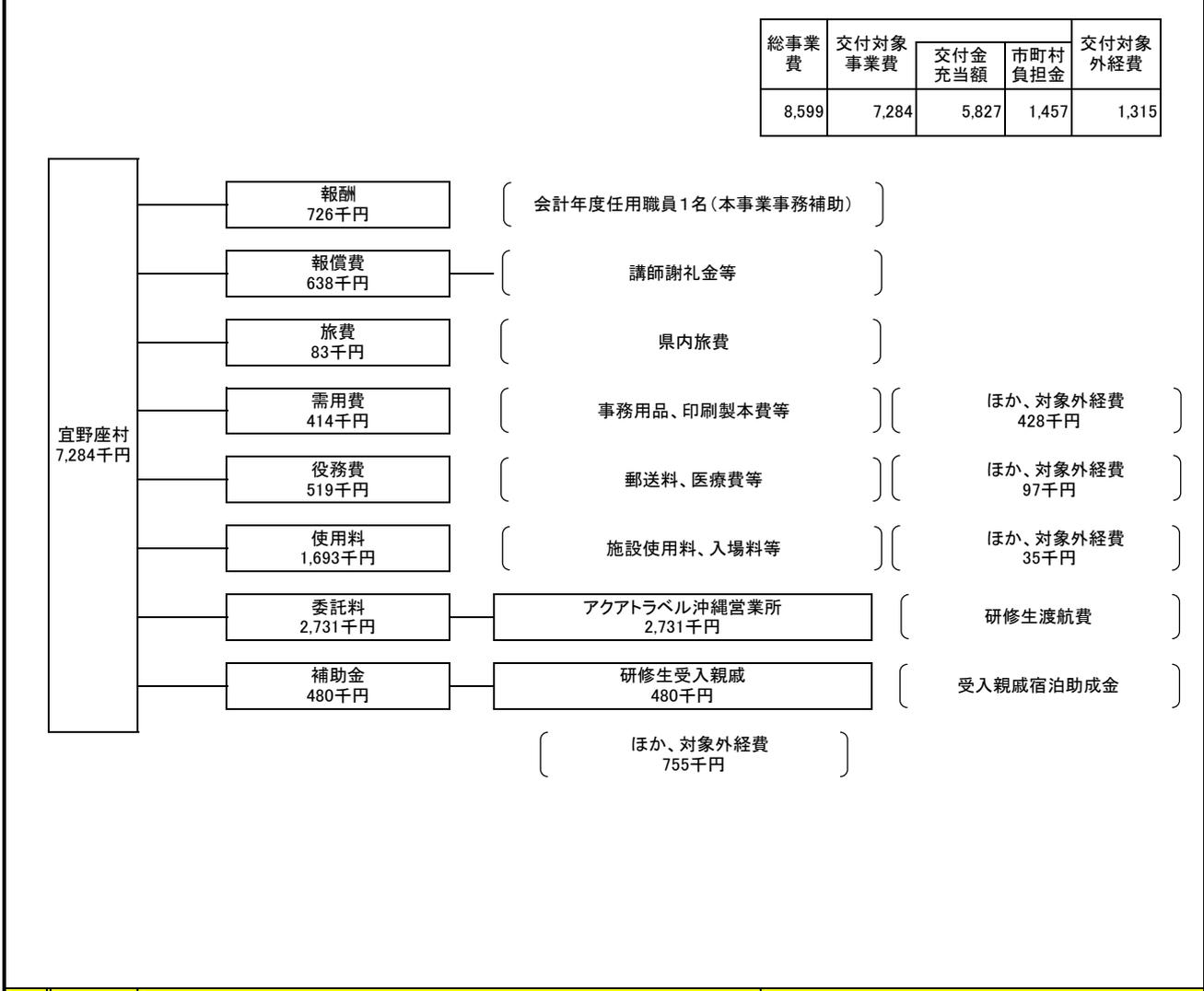
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(日本語能力) ・本事業は、実施35年目を迎え、各国村人会と村民との次世代交流が活発になってきているが、研修生として受け入れる子弟が3世～5世となり、交流のツールとなる日本語能力が課題となっている。	(日本語能力) ・研修生は、歴代研修生たちから基本的なあいさつやよく使う日本語のフレーズなどを事前に教授してもらうよう村人会に伝え、研修を迎えるまでの期間に語学学習に努めさせる。また、事業担当者としても研修生との会話を可能な限り日本できるように心がける。
	(身元引受人の確保) ・村内で研修生を受け入れる側の親戚(家族)の高齢化や他市町村への転出により、研修生の受入親戚(家族)の確保が困難になってきている。	(身元引受人の確保) ・身元引受人(受入親戚)の確保については、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。 令和6年度は、研修生の一人が親戚による身元引受が困難だったため、以前研修生の受入経験のある村民へお願いした。

**今後の取り組み方針**

(日本語能力)  
出国前に日常会話レベルの日本語が話せるよう研修生に学習させるとともに、今後とも村民との交流の場を積極的に設け、日本語講座で習得した語彙が定着できるよう促す。

(身元引受人の確保)  
・身元引受人(受入親戚)の確保が困難な場合は、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○旅券の時価が著しく変動する為競争入札はせず、複数旅行会社との見積比較を実施した結果による最安料金の旅行会社との随意契約を行った。 ○不用額は事業費の約7%であり適正な規模であった。 ○受益者である研修生にとって必要最低限の支出となっており、私的な費用については、本人負担としており、妥当であった。 ○費目、用途については、目的に即し、必要なものだと判断した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

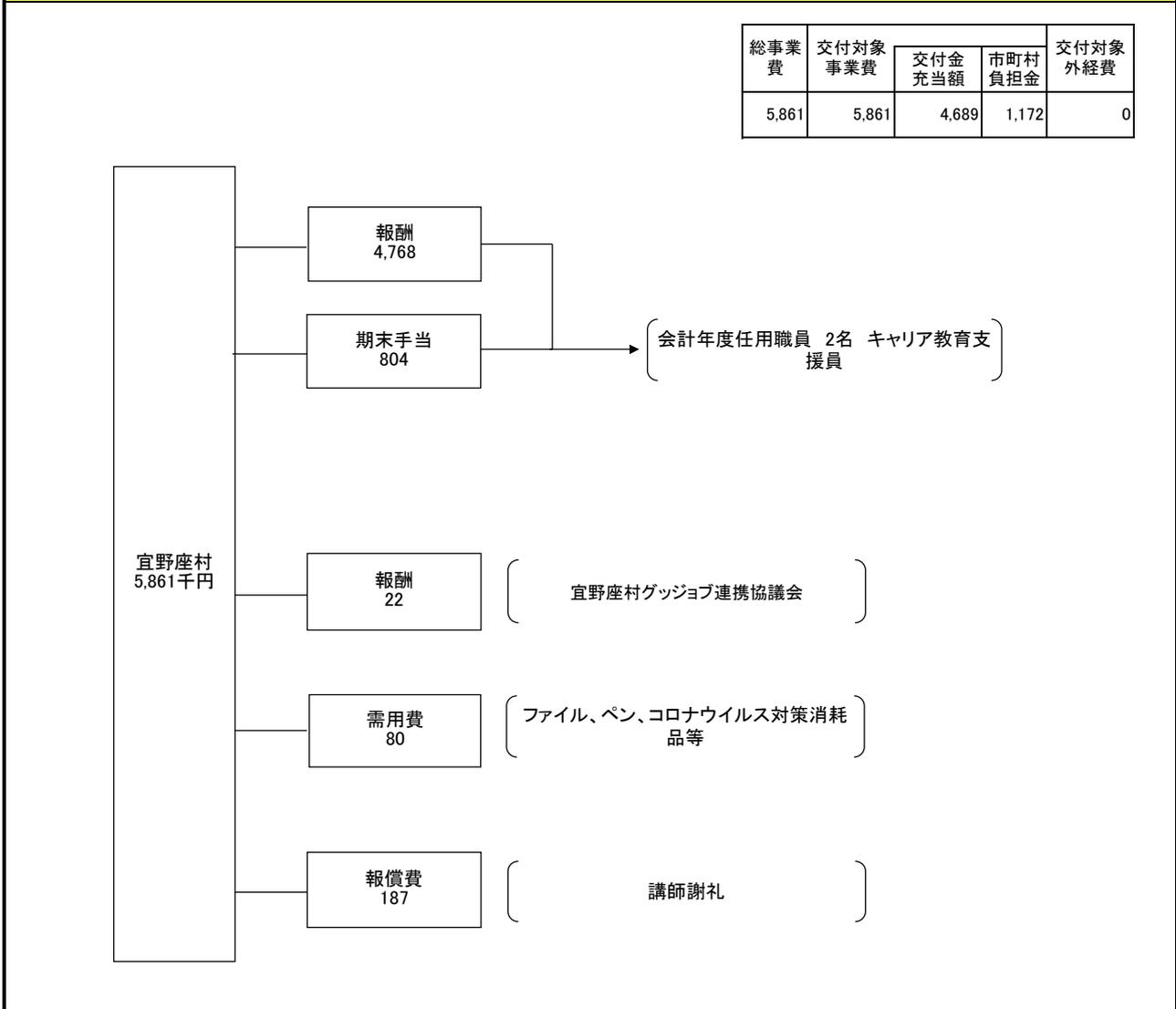
市町村名	宜野座村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	小中高キャリア教育支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ		
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	令和3年度～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の活躍推進		
事業内容	将来的な地域での雇用のミスマッチ解消や人材確保へつなげるため、村内小中高高校生へのキャリア教育や総合的な学習の支援を産学官が連携して行い、児童生徒の就業意識の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	6,014	5,760	5,806		
		(b) 予算現額	6,014	5,760	5,946		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	140	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	6,014	5,760	5,946	0	0
	<b>B. 執行済額</b>		5,233	5,606	5,861		
		うち交付金充当額	4,186	4,485	4,689		
		次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)		87.0%	97.3%	98.6%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	概ね計画どおりに事業を実施することができた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R5活動目標(指標)	達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	村内3小1中1高へのキャリア教育及び総合的な学習への支援	目標	( 5校 )	( 5校 )	( 5校 )	(      )	
		実績	5校	5校	5校		
	グッジョブ連携協議会の開催	目標	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	(      )	
		実績	2回	2回	2回		
	周知広報の取組 (SNSや村広報誌、事業報告パネル展の実施)	目標	( 6回 )	( 6回 )	( 6回 )	(      )	
実績		7回	9回	25回			
達成状況説明	・村内全ての小中高校において、キャリア教育及び総合的な学習への支援を行うことができた。 ・宜野座村グッジョブ連携協議会は2回開催することができ、協議会の目的や意識を共有し、産学官それぞれの立場から課題を共有することができた。 ・周知広報の取組は、保護者説明(3回)パネル展の実施(3回)、村広報誌掲載(2回)SNS発信(20回)など実施した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
	対象校の児童生徒へ事前・事後アンケートを行い、「就業意識が高まったか(80%以上)」を含め、本事業の在り方を検証する	目標	(      )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(      )
		実績		89%	85%	85%	
	【参考指標】	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
実績							
進捗状況説明	事業実施後アンケートを実施し、就業意識が向上したといえる項目で肯定的な意見が平均85%となり、目標の80%以上を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(周知広報) 周知広報の取組は保護者説明、パネル展の実施、村広報誌掲載、SNS発信等、計画通り実施できた。周知広報による効果を検証し、さらに効果的な周知広報媒体を模索する。 (グッジョブ連携協議会) グッジョブ連携協議会は計画通り開催することができ、産学官で現状や課題など情報共有することができた。それぞれのニーズに合わせて取組内容がブラッシュアップされているか効果測定する為にも、アンケートの内容及び分析について協議する必要がある。 (事業実施) 各学校事業のニーズが多岐にわたるため、専門的な知識を有する講師が必要となる。	(周知広報) 周知広報の取組は今後も力を入れ、保護者の理解、地域からの協力者を増やせるよう継続していく。 (グッジョブ連携協議会) グッジョブ連携協議会では、今後の社会や学校、地域の変化を産学官で理解し、課題解決に向けた取り組みについて熟議を重ねていく。 (事業実施) 事業所へアンケート調査等を行い、講師の開拓を行う。

**今後の取り組み方針**

(周知広報)  
 これまで通り保護者説明や村広報誌、SNS等の活用やパネル展を実施し周知広報を取り組む。  
 (グッジョブ連携協議会)  
 計画通り協議会を開催し、協議会内で目的やそれぞれの役割を共有し、今後の取組についての熟議が円滑に行えるよう、協議会を運営していく。  
 (事業実施)  
 村内事業所、村商工会、県のキャリアセンターを活用し、講師の開拓を行う。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・キャリア教育支援員は、書類選考及び面接により選定しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、事業内容にあった適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・会員報酬や講師謝礼の金額については、それぞれの規定に基づいて積算しており、適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途は事業目的に即しており、必要最小限のもので妥当であったと考えます。

市町村名	宜野座村
------	------

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-①	新しい地域公共交通導入検討事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4章-1-(1)-ウ
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	令和5～8年度	人と環境に優しいまちづくりの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-11

事業内容	地域住民より求められている新しい地域公共の導入に向けて、実証実験を行う。			
------	--------------------------------------	--	--	--

効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)
--------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )
------	--

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額					26,784
	(b) 予算現額					26,784
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額					0
	A. 計(b+d)	0	0	0	0	26,784
	B. 執行済額					9,444
	うち交付金充当額					7,555
	次年度繰越額					0
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	35.3%
	予算の状況の説明	当初、7月から実証実験開始を予定していたが、12月開始となった。 実証実験開始時期の変更、入札による委託費の減額により、当初予算額と比較して執行額が減少した。				

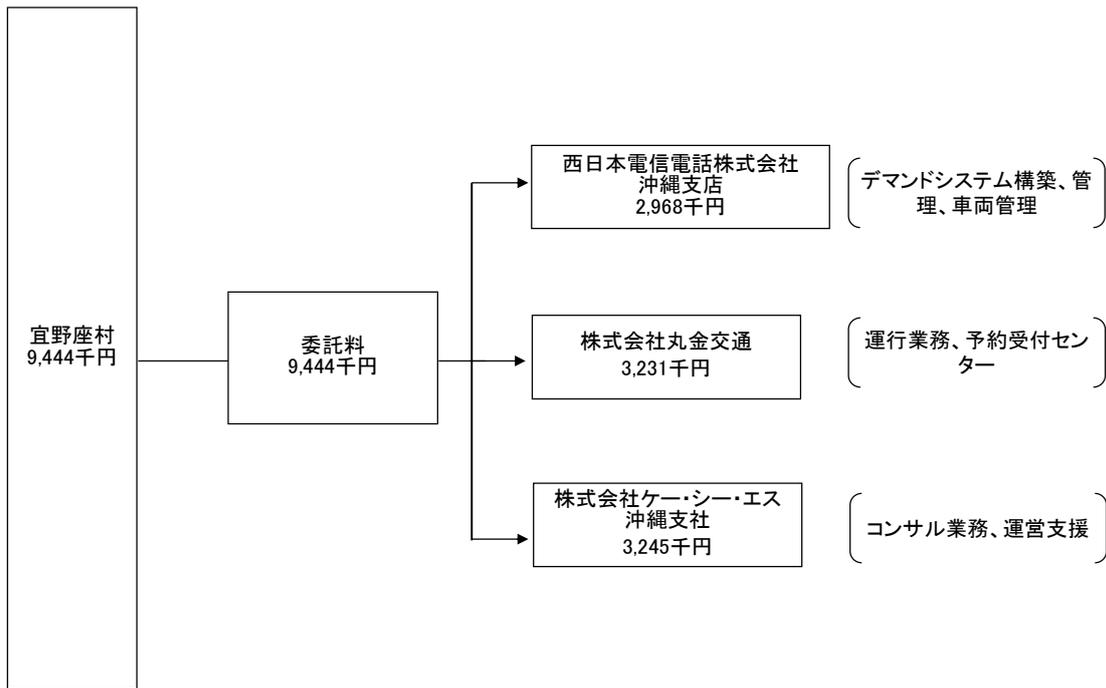
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		実証実験実施による調査等 目標 ( ) ( ) ( ) ( 実証実験実施による調査等 ) 実績 ( ) ( ) ( ) ( 社内にて利用者アンケートを実施 )			
達成状況説明	・デマンドバス実証実験を行った。実証実験実施に当たり、デマンドバスシステム及び車両リースの業務、運行业務及び予約受付センターでの電話対応業務、コンサル業務の3つに分けて実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
		分析、評価及び課題を整理し、定量的な目標値を設定する 目標 ( ) ( ) ( ) ( 分析、評価及び課題を整理し、定量的な目標値を設定する ) ( )				
		【参考指標】登録者数 目標 ( ) ( ) ( ) ( 150 ) ( )				
		実績 ( ) ( ) ( ) ( 177 ) ( )				
進捗状況説明	今年度から実証実験が開始するため、登録者数の設定を目標とした。また、登録者数を増やすため、村内全世帯へのチラシ配布・パンフレット配布、広報誌への記事掲載、村ホームページでの周知、村公式SNSでの周知、村防災行政無線での周知、各区への説明会開催、各区の老人会の集まりや体操教室での周知等、積極的な広報活動を行った。また、琉球新報の記事にも掲載されたことにより、広く情報発信が行われた。その結果、目標登録者数150名を上回る177名の登録となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	車両が1台のみである為、利用予約が重なり利用できない人も生じることがあることから、ルートを勘案した乗合における予約状況の整理など、より効率的なデマンド交通の運用の検討が必要である。	今後も引き続き、各区の集まり等に合わせて積極的な周知活動を行い、利用者登録者を増やし、サービスの需要の把握を図る。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
引き続き、広報活動を積極的に行い、利用者登録をしていない方の登録を促すとともに、社会実装の検討に向け、実証実験分析業務を実施する。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,444	9,444	7,555	1,889	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は99.4%であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○無償での実証実験により、必要な需要を分析する必要があるため、妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	宜野座村
------	------

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	防犯灯脱炭素化推進事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-(ア) 脱炭素島しょ社会の実現に向けたエネルギー施策の推進
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度 令和5年度～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(2)

事業内容	村内全域の既設防犯灯をCO2排出量の少ないLED器具へ取り替え、環境負荷低減を図り、脱炭素化を推進する。
------	--

効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)
--------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input checked="" type="checkbox"/> その他(請負(工事請負))
------	---

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額				12,903	
		(b) 予算現額				12,903	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額				0	
		A. 計(b+d)	0	0	0	12,903	
		B. 執行済額				18,018	
		うち交付金充当額				14,414	
		次年度繰越額				0	
		執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	139.6%
		予算の状況の説明	他事業で予算執行残により、年度途中で取替台数を追加した。				

活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		既設防犯灯約45基をLED器具に切り替える	目標	( )	( )	( )
	実績				52	
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初予定した台数の取替えを実施した。</li> <li>・年度途中で他事業で予算執行残の見込みが出たことから、設計台数を追加し目標を達成した。</li> </ul>					

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(R6年度)		
		(現況) 年間CO2排出量 24,796t-CO2 (脱炭素化後) 年間CO2排出量 9,917t-CO2 ※LED化工事前と比較して、年間CO2排出量約6割削減	目標	( )	( )	( )	( )	LED化工事前と比較して、年間CO2排出量約6割削減	( )
			実績	/				約67.5%削減	/
		【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )	
	実績	/				/			
進捗状況説明	<p>当初、防犯灯の年間CO2排出量について△14,879(t-CO2/年)((変更前24,796(t-CO2/年)→変更後9,917(t-CO2/年))へ削減し、年間CO2排出量約6割削減を目標としていた。年度途中の設計変更で台数が変更があったため、排出量の目標値も変動することとなったが、実績では、年間CO2排出量△26,323(t-CO2/年)((変更前39,001(t-CO2/年)→変更後12,678(t-CO2/年))、年間CO2排出量約67.5%削減となり、目標を達成した。</p>								

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	工事担当課、工事業者と密に行った工程会議により業務が円滑に進んだことが、目標達成の要因と考えられる。	引き続き、工事実施にあたって工事担当課、工事業者と調整を密に行い、業務が円滑に進むよう努めたい。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
引き続き、実施設計をもとに、段階的に各地区において計画的な取替えを行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
18,018	18,018	14,414	3,604	0
<pre> graph LR     A[宜野座村 18,018千円] --&gt; B[工事請負費 18,018千円]     B --&gt; C[漢那電気設備合同会社 18,018千円]     C --- D(防犯灯LED化工事)           </pre>				

資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については設計段階で精査しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	